

全苗連だより

Vol. 93 (1月号)

令和4年1月4日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074



新年の御挨拶

全国山林種苗協同組合連合会

会長 大森 茂男

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、日頃から本会の運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

新しい年に入っても、依然として新型コロナウイルス感染症は日常生活に支障を与え、更には経済活動にも大きく影響しているところです。新型コロナウイルス感染症の一刻も早い終息並びに日本経済の速やかな立ち直りを願うばかりです。

そして、昨年、一昨年と開催を見送らざるを得ませんでした全苗連生産者の集いを今年こそ開催し、宮崎にて皆さんとお会いできることを心から願っております。

さて、コロナ禍の中で苗木の需要見通しに不安な面が出ている状況ではありますが、最も懸念していることは再造林が進まないということです。国産材の供給量が拡大しているのにも関わらず、主伐後の再造林が伸び悩むという事態は、森林資源を「伐って（きって）、使って、植える」という森林を循環的に利用していく理念が崩れるばかりではなく、2050年カーボンニュートラルの実現にも悪影響の出ることが懸念されます。

再造林が進まないという状況は、即ち苗木需要量の見通しが不透明ということを意味し、全国の苗木生産者が思い切った増産体制を取れないなど大きな不安感を与えているところです。

このような状況下で、我々、全苗連の苗木生産者は、これまでの経験・実績・技術に基づき、品質の保証された優れた苗木の安定供給に大きな使命を担っているところであり、①普通苗(裸苗)からコンテナ苗への切り替え、②特定苗木や花粉症対策苗木の供給、③カラマツの増産、④コウヨウザンやセンダンなどの早生樹の供給など苗木に対する要請の変化にもしっかりと対応していくこととしています。

しかしながら、苗木生産者を取り巻く環境には、難しい課題が多いのも事実です。残苗のない安定した苗木供給体制の構築を筆頭として、その他、生産者の高齢化、後継者の育成も大きな課題となっています。

解決のためには、それぞれの地域の特性に併せた苗木づくり及び小面積生産者が苗木づくりを継続するためのバックアップ並びに各樹種の注文にも対応できる広域連携が必要となります。

また、今後の労働力不足への対応策の一つとして外国人技能実習生の活用にも取り組む必要があります。林

業技能向上センターを中心にして林業技能検定制度の検討が始まっていますが、林業における外国人技能実習生2号、3号の資格制度の認定までには暫く時間が掛かりそうですので、まずは外国人技能実習生1号の制度を活用することになると考えられます。地域においては外国人と共生していくこととなりますので、外国人受け入れを円滑に行うため、今後、地元地方公共団体等との連携を深めると共に、何より、地元民からの理解を得られるよう準備を始める必要があります。

最後に、今年が皆様にとって飛躍の年であるようご祈念申し上げますとともに、さらに本会へのご支援とご協力をお願い申し上げ、新年の御挨拶といたします。



新年の御挨拶

林野庁長官

天 羽 隆

新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

全国山林種苗協同組合連合会並びに会員の皆様におかれましては、日頃より森林・林業行政の推進に格別の御理解と御協力を賜っておりますことに対し厚く御礼申し上げます。

昨年は、令和3年7月・8月の豪雨をはじめとする自然災害により、全国各地で甚大な被害が生じました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された全ての方々にお見舞い申し上げます。林野庁といたしましても、全国の被災地の一日も早い復旧・復興に向けた支援を行うとともに、国民の皆様の生命と生活を守るべく、森林の有する山地災害防止機能や水源涵養機能のより一層の強化に向けて、防災・減災、国土強靱化のための森林整備や治山対策等に引き続き取り組んでまいります。

また、災害に強い森林づくりとあわせて、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「2050年カーボンニュートラル」の実現に向け、森林資源の循環利用も求められております。戦後、先人たちが守り育ててきた人工林の多くが成熟し、本格的な利用期を迎えている現在、豊富な森林資源を「伐って、使って、植える」という持続的なサイクルで活用し、森林・林業・木材産業の成長産業化につなげていくことが重要であると考えております。

さて、昨年6月に新たな「森林・林業基本計画」が策定され、今後の森林・林業施策の指針が示されたところです。本計画は、①森林資源の適正な管理・利用、②「新しい林業」に向けた取組の展開、③木材産業の国際競争力・地場競争力の強化、④都市等における「第2の森林」づくり、⑤新たな山村価値の創造という5つの柱を通じて、森林・林業・木材産業の持続性を向上させながら成長発展させることで、社会経済生活の向上と2050年カーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」の実現を目指すこととしております。

計画の実現に向け、基本計画の策定に先行し、昨年3月には「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法」の一部を改正し、同法に基づく間伐や優良種苗の増殖等の支援措置の期限を延長し、エリートツリー等を用いて再生林を促進する措置を新設いたしました。高齢級化の進む我が国の人工林に若い木を増やすことは、森林資源の循環利用に欠かせないと同時に、二酸化炭素の森林吸収量を増加させることに寄与いたします。これは昨年10月に閣議決定された「地球温暖化対策計画」の2030年度の森林吸収量目標約3,800万CO₂トン(2013年度総排出量比約2.7%)という目標達成の重要な手段です。

また、このような再生林の支援のほか、効率的かつ安定的な林業経営の育成を図るための、国有林における樹木採取権制度の活用、2050年カーボンニュートラルに大きく貢献する建築物の木造化・木質化の促進、国産材の安定供給に向けた環境整備としての、川上から川下までの関係団体との連携への取組等が全国各地でさらに進むよう林野庁としてもしっかりサポートしてまいります。

森林・林業・木材産業の持続と成長を促し、社会経済生活の向上と2050年カーボンニュートラルに寄与するグリーン成長の達成に向け、昨年の取組をさらに前進させていけるよう、そして我が国に暮らす全ての皆様が森林の恵みを末永く享受できるよう、全身全霊をもって日々邁進していく所存です。本年も森林・林業・木材産業関係者の、そして国民の皆様の御協力をお願いいたします。

会員の皆様におかれましては、優良な種苗の安定供給に向けて、更なる御尽力と御協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、現在直面している未曾有の課題を打破し、本年が皆様一人ひとりにとって、実り多き素晴らしい一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。



新年の御挨拶

林野庁森林整備部

整備課長 石田 良行

全国山林種苗協同組合連合会並びに会員の皆様方におかれましては、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、7・8月豪雨をはじめとする自然災害により、全国各地で甚大な被害が発生いたしました。被害を受けられた皆様方に心からお見舞いを申し上げます。林野庁といたしましても、被災した森林・林道施設等の早期復旧に向け全力で取り組んでまいります。

さて、改めて申し上げるまでもなく、森林は国土の保全、水源の涵養、地球温暖化の防止などの公益的機能を発揮し、安心・安全な国民生活の実現に貢献しており、その持続的発揮のため、将来にわたって適正な整備・保全が図られる必要があります。

一方、我が国では、戦中・戦後の過伐等により荒廃した国土に先人が営々と植え育てた森林が大きく育ち、この豊富な森林資源を「伐って、使って、植える」という持続的なサイクルで活用していく新たな時代を迎えようとしています。

こうした中、森林資源の持続的な利用と保続培養の観点から、再造林を確実に行うことは林政の最重要課題であります。

その課題解決に向けては、昨年6月に策定された新たな森林・林業基本計画において、優良種苗の安定的な供給、造林適地の選定、造林の省力化・低コスト化はもとより、その視点として「森林・林業・木材産業者においては、自らの短期的な利益のみを追求するのではなく、国土と自然環境の根幹である森林の適切な管理、森林資源の持続的な利用を確保すべく、効率的なサプライチェーンを構築して相互利益を拡大しつつ、再造林につなげるとの視点を共有し努力する」などとされたところです。

このため、林野庁といたしましては、優良種苗の安定的な供給、造林の省力化・低コスト化を図るためエリートツリー等成長に優れた苗木をはじめ今後の造林に必要となる苗木の確保に向け、採種穂園の整備、コンテナ苗生産施設や幼苗生産高度化施設の整備、生産技術の向上等に関する研修の開催等を支援してまいりたいと考えております。

また、造林適地の選定の観点からは、昨年3月に改正された森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法により、これまでの特定母樹の増殖に関する規定に加え、新たに、エリートツリー等を積極的に用いた再造林を進める特定植栽促進区域の設定などの仕組みが盛り込まれました。また、これに併せて、林業種苗の表示の明確化や種苗の需給の広域化、予約生産の拡大等をさらに進めることとしているところです。

これら時代のニーズに即応した優良な苗木の生産には、高度な知見と技術を有する貴連合会会員各位の役割が益々重要となっております。

林野庁といたしましても引き続き、次世代の森林造成に向けた各般の取組を強力に進めてまいりたい所存でありますので、会員の皆様におかれましては、本年も優良な林業種苗の生産の拡大と安定供給にさらなる御協力と御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

全苗連・苗組の行事予定

1月	関東地区林業用種苗需給連絡協議会(神奈川県)(書面)
1月14日	1月期林業団体懇談会(日本林業協会)(赤坂インターシティAIR)
1月28日	中央需給情報連絡協議会(林野庁)
2月7日	当年生苗導入調査委託事業検討委員会(日林協会館)

【令和4年度】

9月29日～30日 第6回全苗連生産者の集い(宮崎県「宮崎市民文化ホール」)